平成19年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第1回森林生態系部会
議事概要

◆日　時　平成20年1月15日（月）10：00～12：00

◆場　所　春日野荘　畝傍

◆出席者

＜委　員＞

井上　龍一	奈良教育大学附属小学校　教諭
川瀬　浩	日本野鳥の会奈良支部　支部長
木佐貫　博光	三重大学　准教授（ご欠席）
佐久間　大輔	大阪市立自然史博物館　学芸員
高田　研一	高田森林緑地研究所　所長（ご欠席）
野間　直彦	滋賀県立大学　講師（ご欠席）
日野　輝明	独立行政法人森林総合研究所関西支所　野生鳥獣類管理チーム長
日比　伸子	橿原市昆虫館　資料学芸係長
前田　喜四雄	奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター　教授
松井　淳	奈良教育大学　教授
村上　興正	元京都大学　講師
横田　岳人	龍谷大学　講師
長嶋　俊介	鹿児島大学多島圏研究センター　教授（利用対策部会長）

＜関係機関＞

林野庁近畿中国森林管理局		
計画部計画課	課長	春原　武志
計画部指導普及課	課付	宮崎　裕之
奈良県農林部森林保全課	自然公園利用係長	中川　康博
上北山村建設産業課	課長	福本　清
	主幹	松島　克典
吉野きたやま森林組合	参事	森岡　哲也

（以上敬称略）

＜事務局＞

環境省近畿地方環境事務所	統括自然保護企画官	田邊　仁
	野生生物課長	高橋　勝志
	自然保護官	福原　裕
	自然保護官	櫻澤　裕樹
吉野自然保護官事務所	自然保護官	羽井佐　幸宏
	自然保護官補佐	釜田　淳志
（財）自然環境研究センター	第3研究部長	永津　雅人
	研究員	岸本　年郎

（株）環境総合テクノス　　環境共生部リーダー　　樋口　高志
　　環境共生部リーダー　　保延　香代

◆議　事
（1）西大台利用調整地区モニタリング調査について
（2）平成19年度調査・事業について（中間報告）
（3）その他

◆議事概要
○委員及び関係機関からの主な意見

（西大台利用調整地区植物モニタリング調査結果について）

・「種子等持込み状況調査」については効果があったのなら、そのこと明記して継続するべき。
・「種子等持込み状況調査」でどれくらいの土が取れ、種子がどれくらいあり、何個体くらい発芽したのかというデータは取っているか。
　⇒［事務局］土の量のデータは取っていない。発芽法調査なので種子の量も不明であるが、どの種類がどれだけ生えてきたかは調査しており、現在整理中。
・「植生回復調査」については調査地をロープ等で囲って完全立ち入り禁止にするのか、マナーの向上や、利用調整による入込み人数制限の効果として評価するのか議論が必要。
・「希少植物調査」の結果については、盗掘などを避けるため、レッドデータブックの各ランクの種が何種あったかという情報のみ公開し、分布図はもちろんのこと、種名の公表も控える。
・各調査それぞれで調査地点を設定しており、調査地点名が複雑。わかりやすく整理すること。また、調査ごとの目的と内容を一覧できる表にまとめて、わかりやすく示すべき。
　⇒［事務局］調査地点については再度、整理し直す。
・今年度は利用調整開始前の駆け込みの大量入りこみの影響を受けているので、初期値として平常値ではなかったことに留意すべき。今後データを読み取る際には調査時期についても注意する。

（西大台利用調整地区動物モニタリング調査結果について）

・鳥類調査については、平日・休日の区別でなく、人数の多少で議論すべき。ただし、今回のデータから利用者の増減と鳥類の出現を関連付けて考えるのは無理。今後は繁殖期に調査を行うことで長期的な変動を見る調査とする。

（西大台利用調整地区の利用に関するモニタリング調査結果について）

・10人以上の団体についての入山については、観察会や学校単位での入山に配慮することは無いのか。
　⇒［事務局］協議会でも議論になったが、最大10人で申請・入山いただくことにしている。

（西大台利用調整地区に係るモニタリング計画（修正案）について）

・現在のスケジュールで行くと、推進計画の見直しと時期がずれてしまうので、西大台の利用調整

の計画と推進計画の見直しの時期をあわせることも検討すべきではないか。

・ 水系に関する指標がないので、今後の候補も含めて検討すべき。

（西大台利用調整地区のモニタリング評価（案）について）

・ 希少植物のモニタリングについて「指標種を選定し」とあるが、希少種の数は多くないので、この中から更に指標種を選定するというのは回りくどい。

⇒［事務局］先のワーキンググループでの指摘を受けてのことであるが、シカの採食による影響と人間の盗掘の影響が区別できないようなものでは利用調整の効果のモニタリングにならないので、可能な限り多くの種を調査できれば良いがそのことは考慮したい。

・ モニタリングを開始したばかりなので、十分な結果が得られていないが、直ちに利用適正化計画を変更する必要があるようなデータは出ていないと認められる。

・ 表現がわかりにくいところや「評価」という言葉の使い方が何を指しているのか分からない部分がある。多少長くなっても一般の方にもわかりやすい文で丁寧に書くべき

⇒［事務局］誤解を招かないよう慎重に再度修正し、協議会に提出することとする。

（植物調査について）

・ （今回は中間報告で、報告のみとする。次回部会で内容について議論する）

（動物調査について）

・ （今回は中間報告で、報告のみとする。次回部会で内容について議論する）

（その他）

・ 本日は午後の会議との兼ね合いもあり、十分な時間が取れなかった。次回の部会は３月４日午後に開催されるが、時間に余裕を取って議論できるよう時間を確保してもらいたい。

・

［文責：近畿地方環境事務所］